

誇りを持てる仕事で、働く意欲を育む。

社会貢献につながる「古着deワクチン」 ほかの仕事とはやりがい全く違う

東京都国立市にある福祉作業所「天成舎」では、日本リユースシステムが運営する「古着deワクチン」の専用回収キット（衣類などを詰める強化紙袋など）づくりを取り入れている。総舎施設長の小川晴美さんは、社会貢献につながるこの仕事は、心や体に障がいのある施設利用者のかたに、ほかの仕事とは違う大きな変化をもたらしているという。

「特に、実際にポリオワクチンを贈った国の人たちに直接会うと、意識がガラリと変わります。ここ数年はコロナ禍で中止していますが、以前は1年に1度、2〜3人の利用者さんとご家族を連れて、ポリオワクチンの寄付先であるミャンマー、ラオス、バヌアツ、ブータンを訪れていました。現地に行くと、何百人もの子どもたちが『ありがとう！』『ありがとう！』と言いながら駆け寄ってくるんです。その光景を見ると、重度の障がいのある利用者さんでも、自分の仕事で遠い国で役立っていることをしっかり理解できるんですね」



現地を訪れたある施設利用者のかたは、正月休みに実家へ帰省した際、「家でのおんびりしている場合じゃない。早くグループホームに戻って天成舎で働かなくっちゃ、僕は世界の子どもたちに薬（ポリオワクチン）を送る仕事をしているんだから」と言うようになったという。

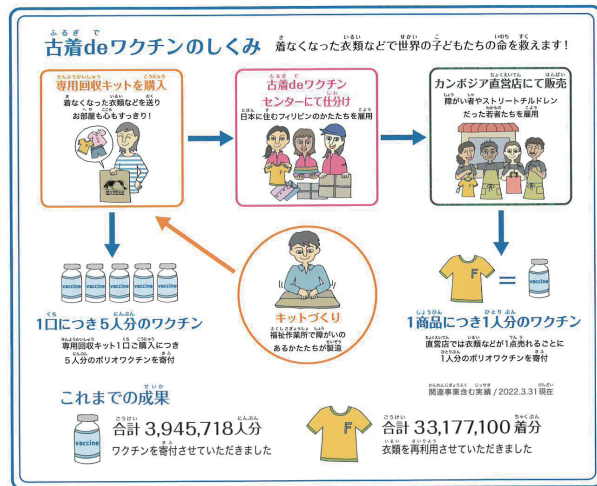
また、こうした意義のある仕事は、家族の意識も変えるのだと小川さんは話す。

「うちの子はすごいな、障がいがあるってめちゃくちゃした生き方をしているな、とご家族が思う。その気持ちは本人にすぐ伝わって、誇りに変わるんです。ご家族から認められることは、仕事のやりがいに大きな影響を与えるんですよ」

古着deワクチンのキットづくりを刑務作業に！

日本リユースシステム株式会社

10年前から保護司として受刑者たちの出所後のサポートもしている小川さん。「古着deワクチン」の専用回収キットづくりを刑務作業に導入すれば、出所者の更生にも役立つのではないかと語る。「出所して生活を立て直すためには、働くことが大前提。そして、働く意欲を育むためには、自分が世の中の役に立っているという実感が大切なんです。だからこそ、社会貢献につながる専用回収キットづくりは刑務作業にピッタリだと思います」



キットづくりで受刑者やそのご家族に前向きな変化を！

日本リユースシステムでは、「古着deワクチン」の専用回収キットづくりをいつか刑務作業にしたいという夢をもっています。福祉作業所「天成舎」のみなさんは、キットづくりを通して、働く意欲が生まれ、仕事への誇りを持っています。同じような前向きな変化が受刑者やそのご家族にも起きるのではないのでしょうか。その可能性を信じています。

(日本リユースシステム 当事業担当 辻本真子)



Vol.18 Chance!!

「絶対にやり直す」という覚悟のある人と、それを応援する企業のための求人誌



少年院・留置場・拘留所・刑務所内でも面接可能！
 全社員元引受可能、社宅・寮完備！
 新規4社を含む全24社掲載！！

有効期限
2022/8/31